

令和7年度 利用者懇談会要点録

於：豊ヶ丘図書館

日 時：令和7年12月14日（日） 午後2時から午後3時30分まで

場 所：豊ヶ丘図書館 学習室

出席者：利用者：5人

図書館職員：5人

図書館長、企画運営担当1 主査、豊ヶ丘図書館長（永山図書館長および唐木田図書館長兼務）、豊ヶ丘図書館職員、企画運営担当1 職員

1. 職員及び参加者自己紹介 (5分)
2. 図書館の利用実績及び第二次多摩市読書活動振興計画に関する説明 (20分)
3. 意見交換 (65分)

内容（要旨）

- (1) 令和6年度多摩市立図書館利用状況
- (2) 第二次多摩市読書活動振興計画について
- (3) 意見交換
- (4) 閉会

(1) 令和6年度多摩市立図書館利用状況について

図書館： 配布した「多摩市の図書館 概要版」に沿って図書館の利用状況等を説明する。

関戸図書館は、永山図書館と同じく駅前拠点館として広域サービスを行っている。

令和6年度は、中央図書館開館から一年となり、8月に来館者数100万人を突破し記念式典を実施し、開館1周目の記念イベントを実施した。

関戸図書館にもある活動室の支払い方法にキャッシュレスを追加し、市内書店と図書館が連携する「本のまちプロジェクト」を令和6年度に開始し関戸も桜ヶ丘エリアとして参加した。

登録状況や貸出数、予約数については、記載のとおりである。人口が10万以上15万未満の自治体レベルでは、全国で貸出が第3位、予約は第2位ということで、全国的に見ても、多摩市はかなり図書館を利用されていると考えている。

こどもへのサービスは、ブックスタート事業では、絵本の給付件数が100%と市民に浸透していると認識しており、毎年度実施している子ども向けの各館回るスタンプラリーも参加者が多い。このほか学校向けでは総合学習、図書館訪問がある。

図書館で行ったイベントは、中央図書館の開館一周年記念イベントのほか、図書館主催だけでなく市民協働や民間事業者との連携などを実施した。

障がい者サービスは、視覚に障がいがある方だけではなく、図書館に来館しにくい方に対し行っている。宅配は、個人宅だけでなく病院や高齢者施設等にも最近は行っており、少しずつ利用が増えていると認識している。また対面朗読は、コロナ禍で利用が減ってしまったが、徐々に復活をしてきた。加えて、国立国会図書館にも音訳や点訳した資料のデータを登録している。

(2) 第二次多摩市読書活動振興計画について

図書館： 「第二次多摩市読書活動振興計画」について概要版に沿って説明する。

「第二次多摩市読書活動振興計画」は、市民の読書活動の振興とその土台となる図書館の課題を明らかにし運営の改善を図ることを目的とし、これまでの「多摩市読書活動振興計画」と「第三次多摩市子どもの読書活動推進計画」を一つにまとめて策定した。

計画では、各図書館の役割分担と図書館ネットワーク網を示しています。中核となる中央図書館は窓口とバックヤード機能を提供し、この関戸は駅前の利便性を活かした駅前拠点館としての機能を果たす。

また読書や図書館の課題を11課題挙げており、この課題を踏まえ、基本理念、基本方針を定めている。基本方針は次のとおり。

基本方針1 「だれもが使える図書館」

基本方針2 「一人ひとりの子どもに寄り添うサービス」

基本方針3 「市民のしらべるを支え、役立つ図書館」

基本方針4 「持続可能な図書館の管理・運営体制の充実と強化」

第4章の計画の内容から基本方針3の3-6「各図書館の地域性を活かしたサービスの提供」における、豊ヶ丘図書館の役割について説明する。概要は記載のとおり、様々な世代の利用者が気軽に職員に相談ができ、利用者のニーズにそったサービスを実施するとしている。

具体的な取り組み例を3つあげている。

一つ目は、展示についてである。展示を通じて、それまで関心のなかったテーマに新たに興味を持ってもらうとともに、関心のあったテーマについては、さらに関心を深めてもらう機会にしたいと考えている。

二つ目が、相談しやすい環境づくりである。利用者には高齢者が多いため、例えばインターネットやパスワード登録など、高齢者が苦手と感じることを一緒に操作するなど職員への声のかけやすさにこだわり、地域の方が自分たちの図書館だと思えるような図書館を目指している。

三つ目が近隣施設との連携である。児童館や保育園に出向いておはなし会を実施している。そのほかにも、福祉館の昼食会やお祭り、八角堂のランタンフェスティバルに参加しているので引き続き実施していく。

(3) 意見交換（図書館サービスについて）

図書館： 続いて意見交換の時間とする。

利用者： 利用者懇談会は年2回実施され、今年は関戸と豊ヶ丘で開催されているが、市民の声を聞いてもらう機会が年2回しかないのは残念だ。豊ヶ丘図書館長は永山図書館長、唐木田図書館長を兼ねているということなので、永山と唐木田のことについても伺いたい。

図書館： 永山図書館は永山駅前に立地しており、利用者の生活動線のなかにある図書館であると認識している。中央、関戸と同様に、セルフ貸出機を導入しているので、利用者職員との関わりという点では豊ヶ丘などに比べると少し薄いかもしれない。そうはいつても、

永山図書館では利用者からのレファレンスに対しては丁寧に対応していると考えている。唐木田図書館は、窓口業務を民間事業者に委託しているが、コミュニティセンターや児童館がある複合施設の中にあることから、児童館と連携した企画なども実施しており、地域の方に親しまれる図書館であると思う。

利用者：インターネットの発達により、図書館はこれまでと違う局面を迎えているのではないかと。併せて高齢化が進んで図書館利用者が減っていくなかで、多摩市の図書館はどのような方向へ行くのか。

図書館：多摩市の図書館の取り組みの1つに「本のまちプロジェクト」があるが、これは図書館と書店が手を取り合って、一緒に市民の読書活動を推進していこうという取り組みである。これまで、同じ「本」を扱っているものの、図書館と書店ではそのスタンスの違いから一緒になにかをするということにはなかったが、たとえば図書館では複本は7冊が限度でそれ以上購入することはしていないため、ベストセラーをすぐ読みたいとなったらやはり書店で購入してもらおうほうが早く読めるという違いがある。一方で、図書館には絶版になった本もある。そのようにお互いの良いところを生かして、協力しながら多摩市を「本のまち」としてPRしていきたい。図書館の1つの方向性として、そのように図書館単独ではなく、地域に開かれた図書館になっていくことで、新たな道ができていくと考えている。

利用者：豊ヶ丘図書館の建て替えについてはどうなっているのか。

図書館：改修ではなく平屋の新たな建物への建て替えということで、各施設が融合しながら場をシェアしていくような多世代の交流の場所として整備していく方針である。整備方針は多摩市のホームページで公開されている。整備計画については、市民と話し合いながら検討されていくので（豊ヶ丘テラス作戦会議）、ぜひ参加していただきたい。

利用者：中央図書館ができて、地域館の常勤職員が減ってしまった。地域館こそ市民にとっては身近な窓口である。地域館は館長も拠点館の館長を兼ねているため、いつもいない状態である。全ての館に責任のある立場の職員がいてほしい。これからどうしていくつもりなのか。

図書館：市役所全体の課題として、職員がなかなか定着せず、人材が限られている状況である。中央図書館は窓口だけでなく、全館を取りまとめる業務であるシステム関係、蔵書関係等を担う職員が必要である。現在、唐木田は業務委託、東寺方は会計年度任用職員による運営を試行で行っているところであり、今後、運営手法について方向性を検討していく。

利用者：唐木田は、当初2年の試行と言って、すでに15年経った。これからどうするのか。

図書館：まだ決まっていない。今後、方向性を検討していく。

利用者：図書館職員のやりがいや楽しみを知りたい。

図書館：（職員A）30年以上図書館で勤務している。当時は、市民が求める本が多摩市にない場合、探し出すまでにとっても時間のかかる時代だった。そこから、インターネット環境などの検索システムが進んで、いまは市民が自分で情報を得られる時代になった。そのなかで図書館の存在意義が問われていると思う。また最近、書店さんなど業務上、様々な人との出会いがあり、読書や本を通じた広がりも仕事の楽しさになっている。

（職員B）インターネットが発達しても確かな情報源であり続けられることが図書館のやりがいであると思う。

（職員C）どうやったら図書館にもっと人が来てくれるのかをいつも考えている。図書館職員のおすすめ本コーナーを作ったりして工夫している。

（職員D）自分自身が本や図書館にいつも助けられているなどと思う。インターネットの情報は広告が付きもので、ほしい情報がなかなか手に入らない。やはり本のほうが欲しい情報が手に入るし、紙のページをめくるよこびがある。

（職員E）おはなし会などで聞いている子どもたちが話に引き込まれている様子を感じるとやりがいがある仕事だと思う。

利用者：地域館4館がなくなるという話が以前あった。利用者と市がお互いに努力して、図書館を残していくこと、子どもたちに読書環境を残していくこと、これからも図書館の職員にがんばってほしい。

利用者：中央図書館の蔵書はもっと専門的な本を置いてほしい。

利用者：町田市の図書館は以前は充実していたが、市長が変わって方針が変わったら衰退してしまった。中央図書館も建物は立派なもののができたけれど、図書館は人（職員）と資料が大切だということを意識して行ってほしい。

図書館：いまの市長は図書館をととても大切にしており、中央図書館の建設を推し進めたところがある。

利用者：調べものがあるときに、図書館で相談できるとみんな思っていない。専門的な質問を受けられることを利用者に知られていないので、もっと広報してほしい。ただ、職員のレ

ファレンススキルが低いと思う。もっと職員の育成に取り組んでほしい。新しく入った司書資格のある職員が本庁に異動してしまうのは残念だ。

利用者：永山図書館でのレファレンスはとてもよかったが、中央図書館のカウンターには椅子もなく、よくないのではないか。

図書館：司書資格の職員が本庁に異動しても、また図書館に戻ってこられるような人事の仕組みを検討していく。今回も様々なご意見をいただくことができた。これからも引き続き図書館を利用していただきたい。

(閉会)